

## 特別講演

# 「督脈通陽法」

藤井正道

(関西中医鍼灸研究会世話人・結針灸院)

1. 督脈通陽法はそれまでの治療に接木するような形で使えます。非常に使いやすい治療法です。

それまでの治療の治療効果が上がります。

たとえば関西中医鍼灸研究会の富田祥史会員の場合は

富田祥史会員は牧りハビリテーション病院附属牧鍼灸院において癌、パーキンソン病などの難病患者やリウマチ、アトピー、膠原病などの自己免疫疾患患者を中心に鍼灸治療を行っている。

◆症例 1 ここ 20 年で一番いい体調になった。痛みがなくなった。

○井○美 女性 63 歳

非定型性リウマチ

主訴 : リウマチが三年前から悪化、膝が痛くて歩くのもままならない。3 ヶ月治療後、半年の中断の後、督脈通陽法を取り入れ 5 ヶ月の治療で膝関節通ほぼ消失。痛みが無いのでイライラしなくなった。血液検査の結果 CRP が激減していた。CRP は 2009 年 1 月に 4.8 が 6 月に 0.22 へ。

### 【中医解説】

督脈通陽法により、督脈から十分な経気が供給され通陽通絡の効果を高めたと考えられる。温通することで湿邪阻絡が改善した。当初の配穴は疏肝理気、通絡が主であった。気滞には有効でも気虚兼気滞には有効性が減少する。督脈の経気を利用し補気と同様の作用をもたらし通陽通絡去湿をはかることで治療成績が向上した。

◆症例 2 慢性関節リウマチについて督脈通陽法が有効(CRP、MMP-3、RF が減少)であった例

○中 ○津○ 50 代女性

慢性関節リウマチ

当初より炎症の強い患者さんで、初診時は夫に付き添われて来院していたが、3 ヶ月後より一人で来院できるようになった。治療に督脈通陽法を追加してから、体温の上昇を感じられ身体が動きやすくなった。1 年間の治療で炎症が増悪するときもあったが、全体として CRP (4.7 → 0.57) と MMP-3 (467 → 280) の低下を見た。血液検査ではその他の貧血傾向も改善された。全体として関節部の痛みの低下、主徴の低下など大きな QOL の改

善をみた。督脈通陽法によって基礎体温が上がるにつれ QOL が回復した。花粉症も発症しなかった。

#### 【中医解説】

症例 1 と同様に着痺。督脈通陽法により、督脈から十分な経気が供給され通陽通絡の効果を高めたと考えられる。温通することで湿邪阻絡が改善したと考えられる。督脈通陽法で督脈の経気を利用し補気と同様の作用をもたらす通陽通絡去湿をはかることで治療成績が向上。

着痺からの炎症は腫脹がみられたとしても、湿邪が主体の湿熱であり、通絡化湿去湿すれば腫れはひき、痛みもなくなる。督脈通陽に加え、四神聡 電鍼で花粉症の症状が出現する目や鼻の顔の部分の通絡ができ、あわせて合谷、列缺等を使うことで花粉症も出現しなかった。長引くりウマチの痛みは抑うつ状態ももたらす。富田会員の治療の配穴はうつ病治療の配穴とも重なっている。

#### 2. 督脈通陽法のやり方

#### 3. 督脈通陽法の作用

#### 4. 督脈通陽法の現代的意義 高度経済成長期以降都市部の日本人は変容した

#### 5. 督脈通陽法の陰陽調整の意義

### モデル患者の主訴と病歴

年齢 54 歳 男性 身長 179 cm 体重 91 kg

主訴 首肩こり・背中こり・腰重い・下肢のむくみ

筋肉がかたい

普段からデスクワークが多く運動不足気味

4 年前にたばこをやめてから徐々に体重が増え 82 kg から 91 kg と (9 kg UP)

下肢のむくみ・腰の重さ・肩甲間部 (右>左) が盛り上がるほど硬い  
マッサージを受けても奥のこりは改善しない。鍼治療で緊張がゆるむ

胃部腹部膨満感 (噯気・おなら多い) 食欲旺盛

大小便は正常

肉食・味辛いもの好む、冷たいものを好む

お腹はよく冷たいと言われる。

## 略歴

### 藤井正道

結（ゆい）針灸院 院長 関西中医鍼灸研究会世話人 1955 年生まれ

横山瑞生先生、兵頭 明先生、木村律先生、邵輝先生に学ぶ。文革期の中国針灸はり麻酔等から学び始め、中医学に出会う。手技重視、鍼中心から関西の気候文化風土に適合した中医学的針灸をめざすようになる。灸法を多用。90 年代後半から漢方薬と鍼灸の専門誌「中医臨床」に臨床論文等の執筆はじめる。2006 年日本中医学交流会 鍼灸分科会・学術大会で『神経性嘔吐』の中医臨床発表  
2008 年～2009 年「中医臨床」に「日本で活かす中医針灸のススメ」を 1 年間連載。生涯臨床家、街の治療家でありつづけることをめざす。実践の中で理論を検証、再構築する現場主義者。

2009 年 7 月 灸法実践マニュアル出版。

同年 9 月「中医臨床」9 月号 118 号に論文「痰湿うつ結（痰湿阻絡）を考慮した難聴の治療」を執筆。

同年 11 月「医道の日本」11 月号に論文「花粉症 中医学的鍼灸からの多様な見方」を執筆。

2010 年 9 月「中医臨床」9 月号 122 号に富田祥史先生とともに「督脈通陽法による慢性関節リウマチの一症例」執筆

2010 年 11 月 鍼灸ジャーナル Vol.17（2010 年 11 月号）に藤井と『鍼灸治療内経気象学入門』（緑書房）の著者 橋本先生の対談が掲載される。テーマは「鍼灸臨床における気象医学の必要性 その土地の気候風土を意識して日々の臨床に生かす」

2011 年 6 月「中医臨床」6 月号 125 号に「被災地リポート／鍼灸マッサージで震災ボランティア―宮城県塩竈市・浦戸諸島での活動報告」を執筆